

大館遺跡群

大館町遺跡

平成3年度発掘調査概要



盛岡市教育委員会

例 言

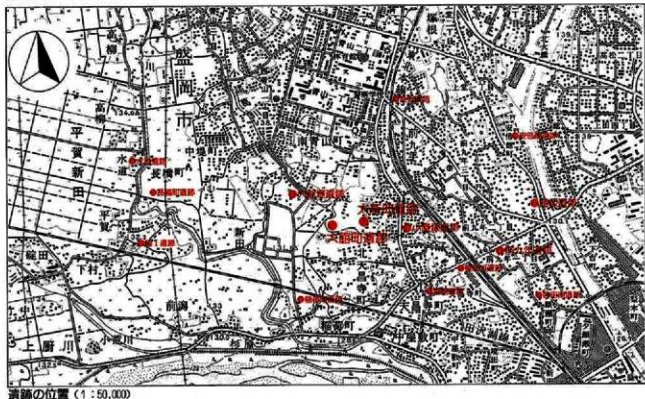
1. 本書は大館町遺跡群・大館町遺跡の平成3年度発掘調査の概要である。
2. 本書は写真を多く掲載した概要書であり、調査の全体を示す事実報告については、別途報告書を作成する予定である。
3. 調査主体者は盛岡市教育委員会で、調査の実施および本書の作成は社会教育課文化係（八木光則・千田和文・似内啓邦・小原俊巳・室野秀文・内山陽子・井上雅孝）がおこなった。
4. 調査の実施にあたって、次の方々からご指導・ご協力をいただいた。記して謝意を表する（敬称略）。岩手県教育委員会、岩手県立博物館、財団法人東北文化振興事業団埋蔵文化財センター、工藤由喜夫、登和産業㈱
5. 大館遺跡群の遺構記号は次のとおりとした。

遺 構	記号	遺 構	記号
竪穴住居跡	RA	炉 跡	RF
建 物 跡	RB	溝 跡	RG
柱 列 跡	RC	配石・集石	RH
土 埴	RD	井 戸 跡	RI
竪 穴	RE	そ の 他	RZ

目 次

1. これまでの調査……………3
2. 平成3年度の調査……………6
3. 検出された遺構……………8
4. 密集する住居群……………9
5. 住居跡と出土遺物……………10
6. 掘立柱建物跡……………11
7. 炉と埋壜……………11
8. 住后のかたち……………12
9. 発掘された縄文時代のムラ……………14
10. 縄文人の信仰……………18

○本遺跡関係文献で盛岡市教育委員会刊行のものは、「大館町遺跡一帯 昭和61年度発掘調査報告」「大館遺跡群（大館町遺跡・大新町遺跡）発掘調査概報」昭和65～平成元年度（10冊）、「大館遺跡群（大館町遺跡）発掘調査概要」平成2年度の計12冊がある。





大館遺跡群航空写真（1：8,000）

1. これまでの調査

大館遺跡群は盛岡市の北西部、雫石川北岸の丘陵性台地（火山灰砂台地）の縁辺部に位置している縄文時代中期を主体とする8遺跡を包括したものです。

台地上には西から大館塚・大館町・大新町・小盛家・前九年・館坂遺跡が立地し、さらに一段下がった段丘面（上田段丘）にも平安時代から江戸時代までを主体とした稻荷町・里館・権現坂・安倍館・宿田南などの遺跡が存在しています。

これらの遺跡の中でも大館町遺跡は早くから調査がなされ、昭和20年代後半にはすでに学会などに発表され、また組織的な発掘調査も岩手大学によって昭和31年から数回にわたって実施されてきました。その調査結果はいずれも縄文時代中期（約4,000～4,500年前）を中心とした大規模な集落跡の存在を裏付けるもので、おびただしい数の住居跡群や多量の土器・石器をはじめとする遺物が発見されています。

また一方、台地東側に隣接している大新町遺跡からは、県内でも最古の縄文時代早期（約10,000年前）の円形土器、早期前葉（約8,000年前）の竪穴住居跡

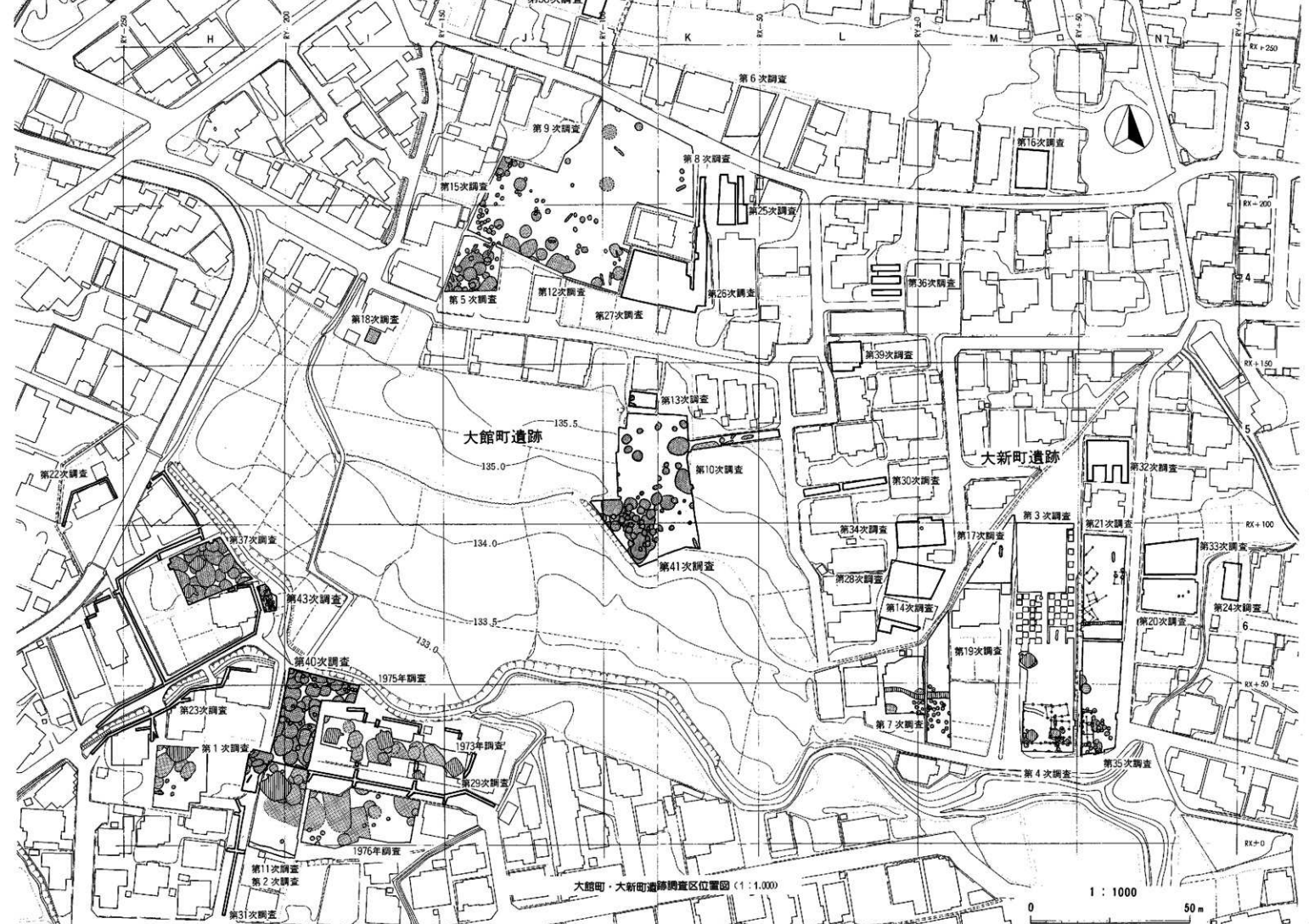
およびそれに伴う押型土器・沈線土器が多量に出土したほか、中期の土器群（食料貯蔵穴）や平安時代末期（11世紀）の竪穴・掘立柱建物基なども検出されています。

さらに東側に位置する小屋家遺跡からは縄文中期の住居跡のほか、直径2mを超える大きさの円形の貯蔵穴群（フラスコ形土坑）が多数確認されています。

東北本線の東側に広がる前九年遺跡でも中期の住居跡が点在して検出されたほか、最近の調査では早期前葉（約7,000年前）の負般系灰文土器群や奈良時代（約1,300年前）の土坑壘および円形溝溝（直径4～8mの円形の溝跡）などが検出されています。

このように大館遺跡群は台地縁辺部に縄文時代を中心として発展した遺跡群で、特に各遺跡に共通して存在する中期においては、やはり大館町遺跡が中核的な位置を占め、台地に広がる当時の集落群の中でも典型的な性格をもった遺跡であると考えられます。

大館町遺跡の平成2年度までの調査成果を総合すると検出された縄文時代の竪穴住居跡は180余棟、竪穴11棟、掘立柱建物跡3棟、土坑110余基などで、ほとんどが中期に所属するものです。



大館町・大新町遺跡調査区位置図 (1:1000)

1 : 1000
0 50 m



大館町遺跡第40次調査区全景（南西から）

2. 平成3年度の調査

今年度の大館町遺跡においては、5件の個人住宅の新築・増築工事および私道整備工事にともなう緊急発掘調査が実施されました（第40・41・43次調査）。そのうち国庫補助事業として実施されたのは3件で、いずれも対象地が隣接するため、まとめて第40次調査として実施されました。なおこれに係る調査事業経費は1,000万円です。

■大館町遺跡第40次調査

□所在地——盛岡市大館町147-10、147-16、147-18、147-19

□調査期間—1991年4月8日～8月31日

□調査面積—497㎡

□検出された遺構・遺物

縄文時代—中期中葉を主体とする竪穴住居跡57棟、
竪穴1棟、獨立柱建物跡2棟、土広16基
および前期末葉～中期初頭の遺物包含層
が確認されている。

□概 要

大館町遺跡は盛岡市の北西部、雫石川北岸の火山灰性台地の南縁辺部に立地しています。今回の調査区は東西220m、南北250mの広がりをもつ本遺跡の南西部に位置しており、東西幅13～23m、南北の長さ30mほどの範囲でおこなわれました。調査前は畑として使用されており、耕作のたびにたくさんの土器片や石器が地表面に表れ、採集することができました。

発掘調査はその耕作土の除去作業から始まり、地表下30cmほどで竪穴住居跡の輪郭を知ることができ、住居跡群は狭い範囲の中に隣接ないし重なり合った状態で多数発見され、長期間にわたって同じ場所に作られていたことがわかりました。

またこれらの住居跡の多くは台地上に堆積した褐色の粘土質火山灰土を掘り込んで築かれています。調査区の南西部からは台地が徐々に下りはじめ、その低地の堆積土中からは検出された住居跡群より古い時期の遺物を包蔵する黒褐色の厚い遺物包含層が確認されました。



大館町遺跡第40次調査区全体図 (1:200)



住居跡の精査



実測作業

3. 検出された遺構

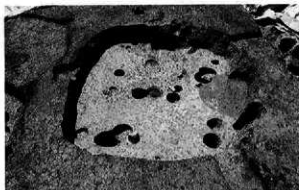
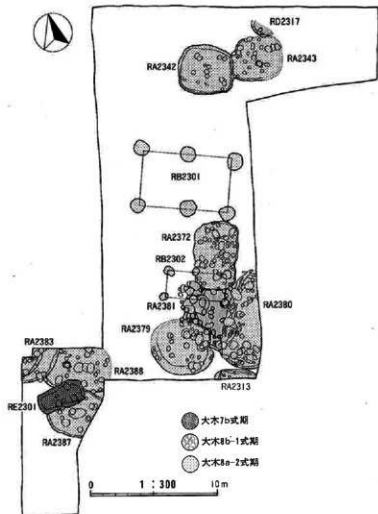
今回の調査では57棟の竪穴住居跡が検出されましたが、そのうち住居の形がよくわかるものは半数ぐらいで、あとは耕作によって削られてしまったり、当時住居どうしが重なり合って造られた時、新しい家に古いものは壊されてしまうため、壁や床面の一部だけが残って確認されたようなものもあります。

発見された竪穴住居跡は形や大きさなどで分類すると次のようになります。

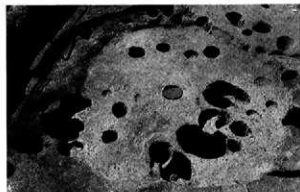
- ①ほぼ円形で、直径4～8mぐらいのもの
- ②ほぼ円形で、直径3m以内の小形のもの
- ③楕円形で、長軸4～6mぐらいのもの
- ④楕円形で、長軸7m以上の大形のもの
- ⑤隅丸方形で一辺4mをはかり、掘り込みの深いもの
- ⑥隅丸方形で、長軸5～7.5mぐらいのもの

出土した土器から住居跡は中期中葉の大木8a～8b式期のもものが主体となっており、古い段階の大木8a式のものでは長方形～隅丸長方形を基調としたRA2313・2372・2380などがあります。次の段階の大木8b式になるにつれて数は増大し、形も長方形から円形～楕円形へと変化し、大きさでは通常規模のRA2362・2368、大形のRA2371、小形のRA2364などいろいろな形態の住居が出現してきます。

■高岡周辺で検出される縄文時代中期の竪穴住居跡は、出土する土器を分類することにより、大木7式から大木10式の4段階に大別され、さらに7式は2段階(7a・7b)、8式は5段階(8a-1・8a-2・8b-1・8b-2・8b-3)、9式は2段階(9a・9b)、10式は2段階(10a・10b)に細分されています。



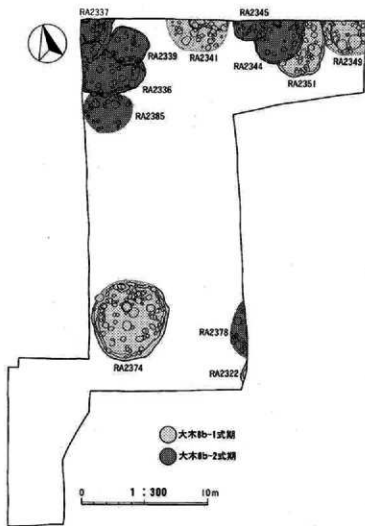
隅丸方形の住居 (RA2342・大木8a-2式期)



中央に埋堂炉をもつ住居 (RA2379・大木8a-2式期)



長方形の住居 (RA2372・大木8a-2式期)



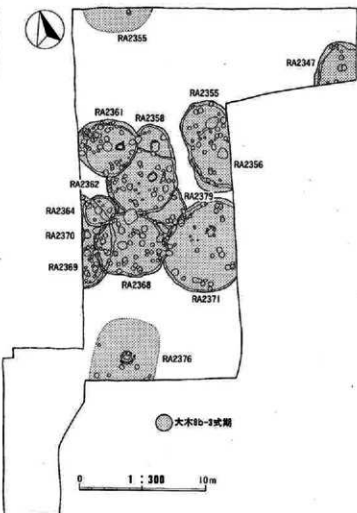
時期別配置図

4. 密集する住居群

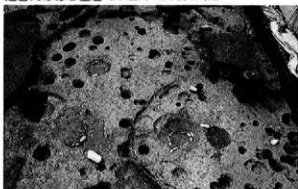
上図は検出された遺構で所属時期が判明した40棟余りのものについて時期別に整理区分したものです。

左図は今回の調査で最も古い段階の大木7b式から8a-2式期に属する遺構の配置を示したものです。中央の直立柱建物跡を境に南北に分布しますが、特に台地縁辺部にあたる南半部に隅丸長方形・円形～楕円形の住居跡が多く見られます。なお7b式に属するRE2301のように炉がなく、柱穴数も少ないものについては、通常の住居跡とは区別して「竪穴」と呼んでいます。

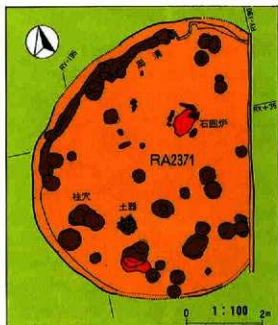
中国の大木8b-1・2式期の段階では、はっきりと南北に分かれて配置している様子がわかり、また最も棟数が多いのは、右図の大木8b-3式期の段階です。調査区中央部に密集する状態で検出され、中でもRA2362・2368の例では、形・規模および炉・埋蓋の位置までそっくり同じような2棟の住居跡が検出されています。



建替えのある住居 (RA2374・大木8b-1式期)



東寄りには炉をもつ住居 (左 RA2362 右 RA2361・大木8b-3式期)



RA2371 竪穴住居跡 (大木取込式用)



RA2371 竪穴住居跡 (北西から)



遺物出土状況

5. 住居跡と出土遺物

RA2371は調査区中央からやや南東寄りで見出された住居跡です。形は楕円形で、長軸7.65m、短軸6.4m以上をはかり、今回の調査で最も大きい住居跡となります。住居の中軸線は北東-南西方面で、そのうち南東側が入口と考えられ、石囲炉はやや北東に位置しています。床面からは大小多数の柱穴が確認されましたが、屋根を支える柱は8本で八角形に配置され、中軸線上にも横持柱となる柱穴が見出されています。

またこの住居跡の床面積は約39㎡（12坪）となり、床面や壁土からは大量の遺物が見出されています。土器では高さ30cm以下の同一規格品に近い中〜小形の深鉢が多く、完形品で出土したものもあります。

そのほか石器では、狩猟時に使用した石鏃（ヤシリ）をはじめ、石鏟（ギリ）や削器（ナイフ）、木を切り倒したり、加工に使用された石斧、採集した木の実などを割ったり、すり潰したりするための石皿・磨石などが出土しています。



出土土器



出土石器

6. 掘立柱建物跡

調査区中央部および南半部で2棟の掘立柱建物跡が検出されています。北側のRB2301は直径1.0~1.3m、深さ0.7~1.2mほどの大形柱穴6個で構成されており、これらをつなぐと東西方向(W18°N)の長方形の建物跡になります。規模は東西2間(桁行7.3m)、南北1間(梁間4.2m)をはかり、断面観察で柱痕跡の太さをはかると40~50cmほどにもなり、かなり太い柱が立てられていたことがわかります。南側のRB2302はやや小規模なもので、東西2間(W20°N・桁行4.7m)、南北1間(梁間2.3m)をはかるものです。これらの掘立柱建物跡は地面を掘りくぼめた整穴住居とは違い、平地に柱穴だけが掘られたものですが、上屋構造(屋根や床など)についてはまだよくわかっていません。

東日本では縄文時代前期頃から出現し始め、性格については、計画的な配置で検出された紫波町西田遺跡(縄文中期)や鹿角市大湯のストーンサークル(縄文後期)などの例では、葬送儀礼にかかわる施設として考えられています。



掘り方断面 (RB2301-Ib5)



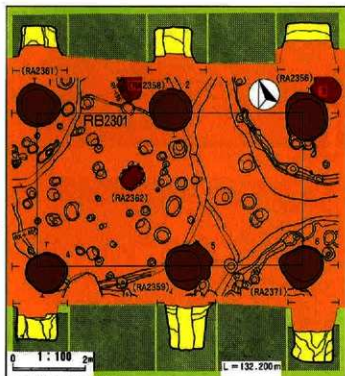
柱穴の位置 (RB2301)

7. 炉と埋壺

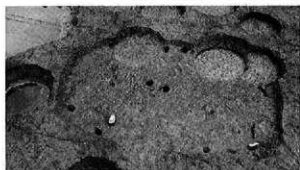
住居跡内の施設としては、RA2362・2368で埋壺が発見されています。両者とも中軸線上の石砌炉の西側(入口側)の床面下に掘立(さかさま)状態で、底面穿孔ないし体部下半を欠いたものが埋納されたもので、これらについては乳幼児の遺骸を埋納した壺形ないし胎盤を埋納した施設と考えられています。



石砌炉と埋壺 (RA2362)



RB2301掘立柱建物跡 (1:100)



早期の住居 (大新町遺跡 RA6507・押型文期)



長方形の住居 (大新町遺跡 RA2313・大木8a-2式期)



楕円形の住居 (大新町遺跡 RA2629・大木8b式期)



支柱穴をもつ住居 (大新町遺跡 RA2624・大木8b式期)

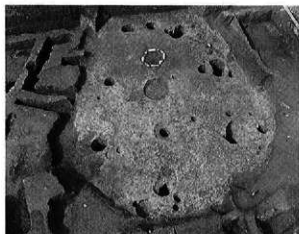
8. 住居のかたち

縄文時代の竪穴住居は、当時の自然環境や社会の変化に対応して、時代ごとに移り変わってきました。

本遺跡に隣接する大新町遺跡からは縄文時代早期前葉(約8,000年前)の押型文期の住居跡が3棟確認されています。これらの住居は隅丸長方形～方形を呈しますが、しっかりとした主柱穴は認められず、壁際から斜めに並べた材で屋根を架けていたようです。また、はっきりとした炉もまだ存在していません。

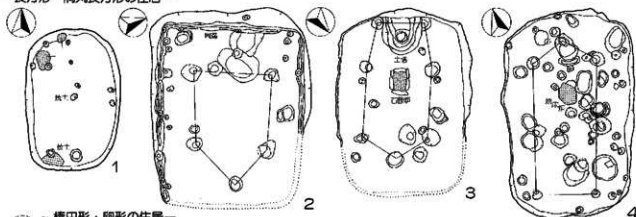
前期(約6,000年前)に入ると、しっかりとした柱穴をもち、中央には地床炉・石皿炉などがつくられるようになります。形は長方形が多くなり、前期末頃からは長軸が10mを超えるロングハウスと呼ばれる共同作業場的な性格をもった大形住居も出現します。

本遺跡で確認される住居跡の多くは中期に属するものですが、大木7式期は少なく、前段階の形を踏襲した長方形ないし隅丸長方形の大木8a式期、そして8割以上が大木8b式期に相当するものです。この頃になると形・規模ともに種類が多くなり、柱穴配置も直径4～6mの円形のもので方形配置の4本柱、長軸7mを超える楕円形～卵形のものでは長軸線上の棟持柱を含めると五角形配置の5～7本柱、楕円ないし亀甲(六角形)配置の6～8本柱のものなどもみられます。また特異なものとしては、通常の住居より掘り込みが深く、炉を持たない「竪穴」に近い形で、壁面に斜位の支柱穴を配置した住居跡も検出されています。

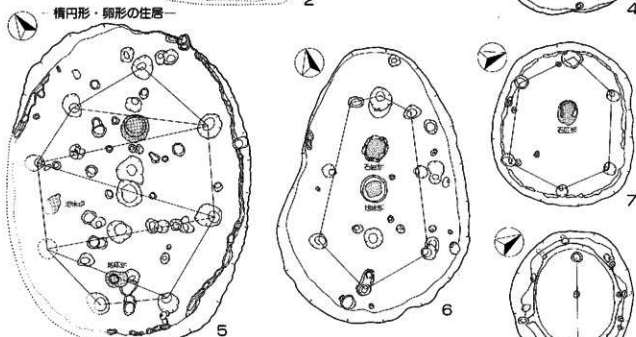


卵形の住居 (大新町遺跡 RA2301・大木8b-1式期)

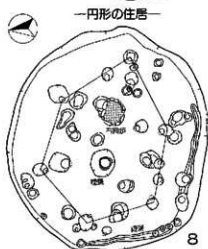
—長方形・隅丸長方形の住居—



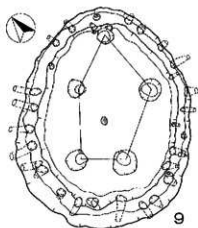
—楕円形・卵形の住居—



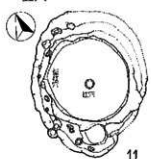
—円形の住居—



—壁柱穴をもつ住居—



—壁穴—



0 1 : 100 2m

いろいろな住居 (大船町遺跡・大新町遺跡)

- | | | | | | |
|-----------------------|----------|-----------|----------------------|---------|-----------|
| 1. RA6507 3.7m×2.9m | 壁柱穴 | (早期・押型文期) | 6. HA2301 7.2m×5.2m | 六角形8本柱 | (大木造2式期) |
| 2. RA2313 4.7m以上×3.0m | 五角形5本柱? | (大木造2式期?) | 7. RA2629 4.3m×3.7m | 輪甲8本柱 | (大木造2式期) |
| 3. RA2314 5.0m以上×3.5m | 1角形7本柱? | (大木造2式期?) | 8. RA2308 5.9m×5.2m | 輪甲8本柱 | (大木造2式期) |
| 4. RA2372 5.9m×3.5m | 六角形7本柱 | (大木造2式期) | 9. RA2624 5.8m×4.9m | 五角形5本柱 | (大木造2式期) |
| 5. HA2102 8.5m×8.5m以上 | 八角形交互8本柱 | (大木造2式期) | 10. RE2510 3.5m×3.2m | 中輪軸上2本柱 | (大木造2式期?) |
| | | | 11. RE7601 6.5m×2.8m | 中央1本柱 | (大木造2式期?) |

9. 発掘された縄文時代のムラ

土器の登場によって食生活が拡大し、気候も暖かくなると、人々は生活に適した小高い台地にムラをつくりはじめます。ムラには数百年から長いものでは千年近くも存続していたと思われるものもあります。これらのムラには中央に広場的な空間や墓域をもち、その回りを住居域が取り囲む環状・馬蹄形集落と呼ばれる形態を構成するものがありますが、これは土地利用でなんらかのムラのおきて＝共同体規制があった結果生まれたものと考えられます。

東北地方で縄文時代中期の大規模な集落の様子がよくわかる遺跡には、岩手県紫波町の西田遺跡、一戸町の御所野遺跡、山形県村山市の西海浜遺跡などが挙げられます。西田遺跡は東北新幹線工事のために調査された遺跡で、発掘の結果、中心部から外に放射状に並んで向かった墓塚群(土塚墓)、掘立柱建物跡、住居跡群・土塚群(貯蔵施設)が、四重の同心円を描く形で発見されました。発掘調査した築垣が細長く、住居域



大館町遺跡全景(西から)

の全貌はわかりませんが、内側の掘立柱建物跡の外径は約80m、墓塚群の外径は40mくらいになります。

御所野遺跡は馬淵川の東側に長く突き出した段丘面に位置する東西500m、南北120mの大きさの遺跡です。

現在も範囲確認調査が継続中で、奈良時代の古墳群のほか、縄文時代中期後半の竪穴住居跡が東西方向に弧状に約500mの範囲で確認され、さらにその西側の中央広場と考えられる平坦面からは石を組み合わせた屋根になると考えられる配石遺構が検出されています。



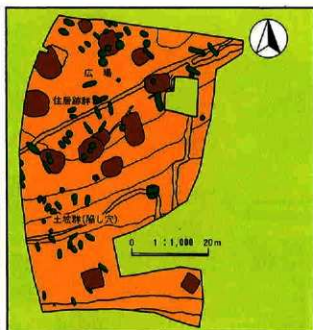
大館町遺跡

西海浜遺跡も縄文中期を主体とした遺跡で、同心円状の遺構配置をみせています。中央に広場、それを取り囲むように墓塚群が存在し、その外側にはおびただしい数の土塚群・小ピット群、さらにその外側(外径は約90m)には50棟以上の大木8b式期をはじめとする竪穴住居跡が整然と放射状に並んで検出されました。

また近年調査された当市の北部に位置する西黒石野遺跡では、縄文前期末～中期初頭にかけての小規模なムラが発見されています。このムラは北上川を西に望む丘陵地の縁辺部に立地するもので、10棟の竪穴住居跡が放射状に直径40mの規模で環状に配置されていました。

これらのように、ひとつの遺跡で共有の広場・墓域・祭場・貯蔵区域・そして住まいの場などが整然と区画されたまま発見された例は非常に珍しく、貴重な遺跡といえます。

大館町遺跡でも掘立柱建物跡や墓と考えられる土坑が確認されていますが、まだ散在する程度の敷しが発見されておらず、不明となっている集落の中心部の構造については、遺構のない広域的な空間が存在するものなのか、もしくは土坑墓や掘立柱建物跡などの葬送儀礼の場が存在するのかが、今後の調査が期待されます。



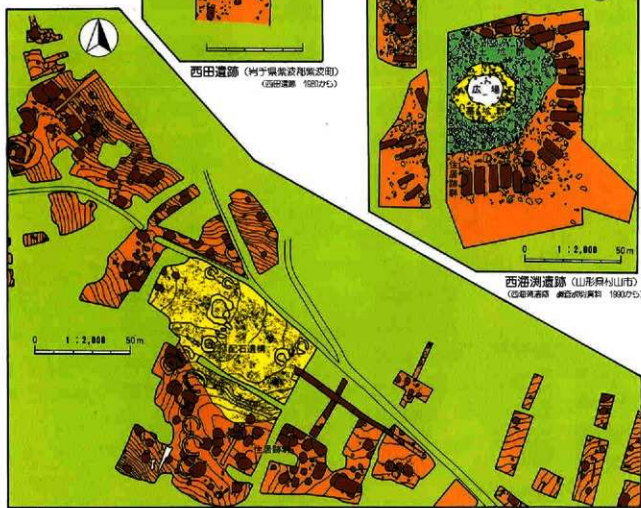
西黒石野遺跡 (岩手県盛岡市)



西田遺跡 (岩手県紫波郡紫波町)
(西田遺跡 1980年)



西沼淵遺跡 (山形県村山町)
(西沼淵遺跡 奥羽文化財館 1990年)



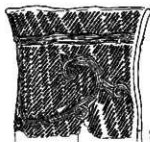
御所野遺跡 (岩手県二戸郡一戸町)

(御所野遺跡 発掘調査報告 1991年)

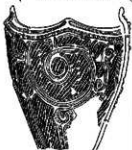
小形深鉢



小形深鉢



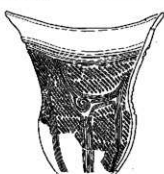
深鉢



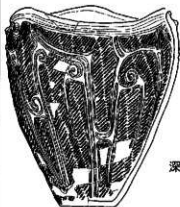
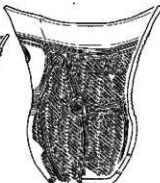
RA2371 竪穴住居跡、出土の土器 (大木8b-3式用)



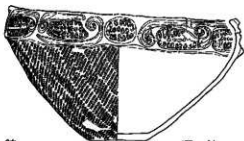
深鉢



小形深鉢



深鉢



深鉢

0 1 : 6 20cm

10. 縄文人の信仰

縄文時代を代表する信仰にガガわる遺物として土偶を挙げることができます。本遺跡の南部～南西部にかけての緩斜面に形成された遺物包含層からは住居区域に比べてやや多く土偶が発見されています。

一般的に土偶は何らかの儀式に使用されたものと考えられ、乳房や妊娠状態など女性を表現したものが多く、またほとんどのものは破損した状態で発見されています。

そのほか、土製品としては動物形土製品、土器片を丸く再加工した土製円盤、ペンダント形の装身具、スタンプ状・ボタン状・筒状・弁状などを呈したいろいろな形の土製品も出土しています。

また一般の土器に比べ、小さく作られたミニチュア土器もいくつか出土しています。RA2342からは中に赤色顔料として使用されたベンガラ（酸化第二鉄）の入ったミニチュア土器と、土器を作る際に粘土に混ぜる混和材として使用されたとと思われる石英質の粉が入ったミニチュア土器が検出されています。なお住居跡出土の土器には、隆線のみを朱塗りしたものや内外面に朱塗りを施した特別な土器も数点出土しています。

石製品では、耳たぶに穴をあけて通したイヤリングと考えられる伏状耳飾、ヒスイ製の未製品、碧玉製の浮子などが出土しています。



いろいろな石製品・土製品



ミニチュア土器



動物形土製品



ベンガラの入ったミニチュア土器



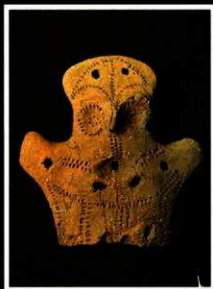
いろいろな土偶



朱塗りの土器

第40次調査検出遺構一覧

遺構番号	平面形	規模	主柱の向き	主柱の穴(配・木数)	柱の形制(取)	床の状態(瓦葺・土葺)	時期	特記事項
RA2313	長方形	4.7m以上×3.9m	W27N	五角形5本柱?	?	一部全周	大木8-1式?	RA2322に切られる
RA2327	?	?	?	?	?	同層	大木8-11式	RA2313に切れる
RA2334	扇形?	3.3m×2.5m以上	N82W	?	石壁(石?)	?	大木8-D3式	RA2336に切れる
RA2335	?	?	?	?	円形石壁(石?)	船場土葺(1)	大木8-D3式?	-
RA2339	扇形?	5.0m×3.7m以上	F3N	並列6本柱?	地蔵石(2)	一部全周	大木8-D2式?	RA2338に切られる
HA2353	円形?	2.5m以上×3.3m以上	?	?	石壁(石?)	一部全周	大木8-D2式?	HA2352に切られる
RA2338	円形?	3.1m×3.3m	F12N	中央6本柱?	並列石(1)	一部全周	大木8-D2式?	RA2339に切られる
RA2340	円形?	直径2.6m以上	?	?	円形石壁(石?)	船場土葺	大木8-D2式	-
RA2341	?	直径4.2m以上	?	?	?	?	大木8-D1式?	-
RA2342	丸丸方形	4.0m×4.3m	E27S	長方形4本柱	並列石(1)	一部全周	大木8-D1式?	RA2316に切れる
RA2343	小楕圓形?	3.5m×3.0m以上	?	?	方形(楕圓?)	?	大木8-D2式?	RA2342に切られる
RA2344	楕圓形?	4.3m×3.4m以上	N29E	楕圓6本柱?	石壁(石?)	?	大木8-D2式	RA2345に切られる
RA2345	円形?	直径3.3m	N41E	円形6本柱以上?	N41E	?	大木8-D2式	RA2344に切れる
RA2346	?	?	?	?	地蔵石(1)	?	大木8-D1式?	RA2344、2348に切られる
HA2347	扇形?	3.4m以上×3.0m以上	?	?	?	一部全周	大木8-D1式?	RA2348に切れる
RA2348	楕圓形?	2.0m×3.0m以上	?	?	地蔵石(1)	一部全周	大木8-D1式?	RA2348に切れる
RA2349	円形?	直径2.35m	N9E	方形4本柱?	?	?	大木8-D1式?	RA2348に切られる
RA2350	?	?	?	?	円形(楕圓?)	(船場土葺)	?	-
RA2351	楕圓形?	4.3m以上×3.4m以上	N17E	長方形6本柱?	船場土葺(1)	一部全周	大木8-D1式?	RA2349に切られる
RA2352	不整形円形	3.2m以上×3.5m以上	?	?	石壁(石?)	?	大木8-D1式	RA2351に切られる
HA2353	?	?	?	?	地蔵石(1)	(壁・床面等)	大木8-D1式	HA2352に切れる
RA2354	?	?	?	?	楕圓石(1)	?	大木8-D1式	HA2354に切れる
RA2355	円形	直径3.9~4.3m	W39N	楕圓6本柱	地蔵石(1)	?	大木8-D1式	RA2356に切れる
RA2356	楕圓形?	5.3m×3.5m以上	W39N	楕圓6本柱?	地蔵石(1)	?	大木8-D1式	RA2356に切れる
RA2357	円形?	直径5.0m以上	?	?	円形(楕圓?)	?	大木8-D1式?	RA2356に切れる
RA2358	楕圓形?	2.8m×4.5m	N/W	?	石壁(石?)	?	大木8-D1式?	RA2356に切れる
RA2359	不整形円形	3.4m×5.8m?	N/W?	?	地蔵石(1)	?	大木8-D3式	-
RA2360	不整形円形?	4.0m以上×3.9m以上	?	?	方形石壁(石?)	?	大木8-D3式	-
RA2361	円形	直径4.0m	E27N	五角形5本柱?	?	一部全周	大木8-D3式	建替え(2期)あり
RA2362	円形	直径3.3~5.5m	E14N	五角形/木柱?	方形石壁(石?)	船場土葺(1)一部	大木8-D3式?	RA2361に切れる
HA2363	?	?	?	?	?	?	大木8-D3式?	HA2362に切れる
RA2364	円形	直径2.75~3.0m	E8S	方形4本柱?	地蔵石(1)	一部全周	大木8-D3式	RA2363に切れる
RA2365	楕圓形?	7.3m×2.0m以上	N1E	?	石壁(石?)	(壁・床面等)	大木8-D2式	RA2364に切れる
RA2367	?	?	N/E?	?	石壁(石?)	(壁・床面等)	大木8-D2式	RA2368に切れる
RA2368	楕圓形	5.9m×5.2m	N/E?	?	方形(楕圓?)	(壁・床面等)	大木8-D2式	RA2368に切れる
RA2369	?	?	W27N	楕圓6本柱	?	船場土葺(1)一部	大木8-D2式	RA2354に切れる
HA2370	?	?	?	?	?	?	大木8-D2式?	HA2355に切れる
RA2371	楕圓形	7.65m×6.4m以上	N32E	楕圓交差6本柱?	石壁(石?)	一部全周	大木8-D3式	RA2370に切れる
RA2372	楕圓長方形	5.3m×3.9m	N14E	長方形6本柱	船場土葺(1)	一部全周	大木8-D2式	RA2371に切れる
RA2373	円・楕圓形?	?	?	?	?	?	大木8-D2式	RA2372に切れる
RA2374	円形	直径9.0~6.2m	N6E	楕圓交差6本柱?	円形(楕圓?)	一部全周	大木8-D1式	建替え(2期)あり
HA2375	?	?	N-E?	?	円形石壁(石?)	(壁・床面等)	大木8-D3式?	HA2374に切れる
RA2377	楕圓形	6.9m以上×6.0m以上	N27E	長方形6本柱?	地蔵石(1)、地蔵石(1)	?	大木8-D2式	RA2376に切れる
HA2378	?	?	N27E	?	?	?	大木8-D2式	HA2378に切れる
RA2379	円形	4.0m以上×4.1m以上	N41E	?	?	?	大木8-D2式	RA2379に切れる
RA2380	楕圓長方形	直径3~4.2m	?	?	楕圓石(1)	一部全周	大木8-D2式	RA2380に切れる
RA2381	楕圓長方形	7.3m×3.2m以上	?	?	楕圓石(1)	一部全周	大木8-D1式?	RA2380に切れる
HA2382	楕圓長方形	6.9m×4.3m	N29E	?	円形(楕圓?)	一部全周	大木8-D1式?	HA2381に切れる
RA2382	?	?	?	?	方形石壁(石?)	(壁・床面等)	大木8-D2式?	RA2382に切れる
RA2383	円・楕圓形?	2.8m以上×3.0m以上	?	?	?	?	大木8-D2式?	建替え(2期)あり
HA2384	?	?	N-E?	?	石壁(石?)	(壁・床面等)	大木8-D2式?	HA2383に切れる
RA2385	円形?	直径3.5m?	N15E	?	地蔵石(1)	?	大木8-D2式?	RA2384に切れる
RA2386	楕圓形	直径3.9m以上	N/E?	?	?	?	大木8-D2式?	RA2384に切れる
RA2387	楕圓形	楕圓11×3.85m	W47N	楕圓6本柱?	船場土葺(1)、船場土葺(1)	一部全周	大木8-D2式	RA2387に切れる
RA2388	楕圓形	4.8m以上×3.5m以上	W18N	楕圓交差6本柱?	上部船場土葺(石?)	一部全周	大木8-D2式	RA2387に切れる
RA2389	楕圓長方形	3.75m×9.0m	E8N	小柱穴1門	?	一部全周	大木8-D2式	RA2387、2388に切れる
遺構番号	平面形	規模	主柱の向き	断面形状	-	床の状態	時期	特記事項
RD2301	長方形	2楕×1楕(3m×4.2m)	W15N	柱間差あり	-	-	大木8-D2式?	RA2382に切れる
RD2302	長方形	2楕×1楕(4.1m×2.3m)	W27N	柱間差あり	-	-	大木8-D2式?	-
遺構番号	平面形	規模	主柱の向き	断面形状	-	床の状態	時期	特記事項
RD2314	楕圓形	0.95m×1.1m	-	ドーカー形	-	-	-	RA2339に切れる
RD2315	長方形	上楕1.55×0.75m、下楕1.75×1.3m	-	フリスコ形	-	-	-	-
RD2316	円形	上楕1.5m、下楕1.6m	-	?	-	-	-	-
RD2317	楕圓形?	1.4m×0.9m以上	-	ヒコ形?	-	-	大木8-D1式?	RA2342に切れる
RD2318	楕圓形	上楕1.85~1.15m、下楕0.9~1.1m	-	フリスコ形	-	-	-	RD2320に切れる
RD2319	円形	上楕1.85~0.8m、下楕1.8~1.0m	-	フリスコ形	-	-	-	RD2320に切れる
RD2320	円形	上楕1.25m、下楕1.05~1.45m	-	フリスコ形	-	-	-	RD2318、2319に切れる
HD2321	円形	直径0.75~0.85m	-	ドーカー形	-	-	-	HA2348に切れる
RD2322	円形	上楕1.0~1.15m、下楕1.35~1.15m	-	フリスコ形	-	-	-	HA2348、2349に切れる
RD2323	円形	1楕1.9~1.0m、下楕1.4~1.5m	-	フリスコ形	-	-	-	RA2348、2349に切れる
RD2324	楕圓形	上楕1.85×0.65m	-	ヒコ形	-	-	-	RA2381に切れる
RD2325	楕圓長方形	上楕1.9×1.0m	-	-	-	-	-	-
RD2326	楕圓形	上楕1.1~1.3m、下楕1.1~1.4m	N30W	フリスコ形	-	-	-	RA2388に切れる
RD2327	方形	上楕1.25×1.1m	N16W	-	-	-	-	-
HD2328	円形	1楕1.85m、下楕1.4~1.15m	-	ノリスコ形	-	-	-	RA2381に切れる
RD2329	楕圓形	上楕1.25m、下楕1.1~0.8m	N32E	-	-	-	-	Tビット



大館遺跡群
大館町遺跡
平成3年度 発掘調査概要

発行年月日 1992. 3.31
発行 盛岡市教育委員会
〒020
岩手県盛岡市内丸
12-2
☎(0196)51-4111
ED 刷 川口印刷工業(株)